

令和7年6月23日

## 6月の木材価格・需給動向

### 1. 国産材(北関東)

栃木県では、6月に入り各地区の原木入荷は順調。国有林材の入荷も始まり販売量は昨年より多い。例年より気温が高く虫害対策として、皆伐施業から間伐、保育等の作業に切り替えており、今後の原木生産量は若干減少の見込み。スギ材は供給量が増え安定し、製材業者の在庫不足も解消されたためか値下がり傾向。3.0m柱材で14,000円台前半、4.0m中目材は15,000円台後半で推移。ヒノキ材は全般的に保合が続いているが、中目は若干値を下げている。3.0m柱材で23,000円台前半、4.0m中目材は23,000円台後半で推移。

群馬県では原木の出材は減少傾向だが、売れ行きが悪いため集荷は容易である。原木価格の下落傾向は続いている。製材工場の原木在庫は依然としてヒノキ4.0m、14~18cm(4m90角・105角用)が少ない。受注は土木と大型物件が重なり順調。製品在庫は間柱、仮筋等、側製品は依然少ない。角類は均衡。ヒノキ4m90角・105角KDは、原木不足のため少ない。全体的な在庫も70%程度で例年の6月に比べ順調である。

### 2. 米材

北米産地では、急な原木の増産は難しいものの、事前の需要に合わせて伐採されており順調である。港頭在庫も大きな過不足なく安定している。米国内の米マツ原木価格は長期的には強含みの傾向にある。米マツIS級並の対日輸出価格(推定)は前月と同じ\$970/千SCRで決着した模様。米国内の2×4価格は米加間でランプ関税が保留されている関係から4月上旬まで上昇したが、5月末に年初の価格まで低下している。ランダムレングス紙発表の15種平均価格(6/3)は\$434/Mで5月初めに比べ8.4%の下落。

4月原木入荷は203千 $m^3$ (前月比15%増)と2ヵ月連続の増加、1~4月累計では587千 $m^3$ (前年同期比10%増)、うち米国産が433千 $m^3$ (同14%増)と回復。出荷は219千 $m^3$ 、1~4月累計は625千 $m^3$ (前年同期比14%増)在庫は137千 $m^3$ 、在庫率は出荷増に伴い0.94ヵ月に減少。東京木材埠頭の5月製品入荷は9.7千 $m^3$ (前月比1.8%減)、出荷は9.0千 $m^3$ (同15.5%減)、在庫は23.5千 $m^3$ (同3.2%減)。国内の製品需要は足踏み状態でプレカット工場の仕事が少ない状態に大きな変化はなく、受注価格と資材仕入れに下方圧力はあるものの、産地および製材メーカーの値上げ姿勢は強い状態となっている。

### 3. 欧州材

一部サプライヤーの第3・四半期交渉が開始し、€25/m<sup>3</sup> (4,000円)程度の値上げ提示となる。ラミナのコストアップがさらに続く。産地は夏期休暇の時期でもあり売り急ぐ気はない。原木価格の上昇やインフレにより工場経費が上昇しており、産地価格は引き続き強含み。国内の間柱類は入荷が多少回復しており不足感は薄れている。集成柱・集成梁も入荷が回復してきており、不足感に陰りが見えるが、価格は引き続き強含み。プレカット工場の稼働は現在順調だが、4号特例廃止後の確認申請に時間を要しており、数ヶ月は停滞する懸念がある。東京港の4月製品入荷は9千m<sup>3</sup>、5月以降に1~3月積み契約玉の入荷が増える見込み。出荷は13千m<sup>3</sup>と堅調であったが、5月以降はやや不安視される。在庫は26千m<sup>3</sup>でボトムとなっている。

### 4. 北洋材

産地の5月の気候は平年並み。原木は中間土場からの搬出が主体である。一部で夏山伐採が始まっているが、カラマツが増える見込み。日本向け製材品の生産増加はルーブル高とアカマツ原料不足で頭打ち。中国の引合いは強くない。ウズベキスタン等の国内需要は建築シーズンに入り更に強含み、ルーブル高と相俟って輸出価格と競合し始めた。アカマツ完成品価格は\$590~580/m<sup>3</sup>で一旦上げ止まりか。4月の製品入荷(東京+川崎)は16.3千m<sup>3</sup>と滞留していたコンテナが引き続き入荷。出荷は12.4千m<sup>3</sup>で実需がやや上向くも迫力は窺えない。在庫は34.4千m<sup>3</sup>で在庫水準が高まったが、一次的なものと冷静受け止められている。

### 5. 合板

国産合板はカラマツ原木の入荷が減少しており、生産が上がらない状況が続いている。表裏単板に使用する重要な原料だけに今後の入荷が懸念される。西日本のメーカー中心に在庫が低調で納期も即納が厳しい状況である。針葉樹合板価格も5月に一段高となり直需系を含めて値上げが継続。4月の国内合板生産量は21.6万m<sup>3</sup>、このうち針葉樹構造用合板は19.5万m<sup>3</sup>、出荷量は20.2万m<sup>3</sup>、在庫量は14.3万m<sup>3</sup>で前月より7,500m<sup>3</sup>減少。4月の合板輸入量は18.6万m<sup>3</sup>(前年比107.1%)でマレーシア産が増加し全体を押し上げた。中厚品に品薄感が出ている。マレーシアでは慢性的な原木不足が継続しており、5月の横浜港への本船は久しぶりにゼロとなった。インドネシアでは日本向けの合板生産は横ばいで、為替変動や日本の需要不透明により生産は上がらない状態が続いている。

## 6. 構造用集成材（国内産）

5月の弊社ラミナ入荷量は前月に比べ約16%減少。在庫は潤沢であるが、入港量が減少しており需要に応じて仕入量を調整していく予定。第2・四半期契約価格は€280～€290/m<sup>3</sup>程度。第3・四半期契約も値上げオファーの可能性が高い。5月のプレカット稼働率は関東を中心に高く、また非住宅物件の受注がかなり多かった。長物や尺上の価格は強含み。6月以降の荷動きは一般住宅の確認申請の延長により見通しは不透明である。4月の構造用集成材の輸入量は小断面21,259 m<sup>3</sup>（前年同月比13.4%減）、中断面10,949 m<sup>3</sup>（同40.4%減）となっている。

## 7. 木材チップ（東海）

原木の入荷は、製紙・バイオマス発電用ともに例年並みで順調に推移している。燃料材は、震災廃棄物の流通量に濃淡があるが、北陸3県及び近県に大量の木くずが搬出されており、処分費値上げの要因となっている。消費状況は製紙用では、洋紙・板紙とも製紙原料は減少傾向が続いている。また人員不足により紙加工部門では増産ができない状況にある。燃料用は、長期の定期修理開始により、消費量減少。原料用・燃料用ともに在庫超過で推移。特に燃料用は震災廃棄物の大量入荷が続いており、在庫過多の状況にある。

## 8. 市売問屋

関東の各市場では記念市のラッシュだが、様子見の客が多い。都内では国産材、外材とも構造材の動きは良くなく、増改築分しか出ていかない。国産材の造作材は外材より安いので売れている。製材工場は原木が少ないとの事で強気であるが、材木店は仕事がある分だけ買っている。国産材、外材とも価格は強い。

## 9. 小売

国産構造材は市中の流通量減少の話は聞こえるものの、引き合いは少なく価格は保合。外材構造材はムク材・集成材ともに流通量が少なく強含んでいるが、実需が弱く不足感は感じない。国産造作材は和室関係の需要は全くないが、集合住宅や店舗関係の内装需要は多い。外材造作材は米ツガ・スプルスとともに日本向けの供給量は減少しており価格も強い。5月までは、4号特例改正の処理が遅れた物件が残っていたため、ある程度の仕事量につながったが、基本的には実需は少なく、単価を下げてでも仕事を奪い合う構造となっている。

参考資料

(一財)日本木材総合情報センター

令和7年6月23日

1. 主要外材入出荷在庫量

		入荷量	出荷量	在庫量
米材	丸太	→	→	→
	製材品	→	→	→
欧州材	製材品	↗	→	↗
北洋材	製材品	↘	→	↘

注) 北洋製材品は東京・川崎

矢印の表示は今月に対する翌月の動向を、下記の様に示したものである。

- ↑ 急増・急上昇
- ↗ 増加・上昇
- 横ばい
- ↘ 減少・低下
- ↓ 急減・急落

2. 合板供給量

国内製造量	輸入量		
	計	インドネシア	マレーシア
→	→	→	→

3. 価格動向

樹材種	形状	取引条件	樹種・寸法等	動向
国産材	丸太	卸売価格 (北関東、県内産 市場土場渡し)	スギ柱材(3m) 2等	→
			スギ中丸太(3.65m) 2等	→
			ヒノキ柱材(3m) 2等	→
			ヒノキ中丸太(4m) 2等	→
	製材品 (関東近県産 板は東北産)	首都圏・市売り 価格	スギ柱角(KD) 10.5×10.5×3m 特等	→
			スギ柱角(KD) 12.0×12.0×3m 特等	→
			スギ間柱(KD) 10.5×3.0×3m 特等	→
			スギ加工板 1.3×18.0×3.65m 特等	→
			スギタルキ3.0×4.0×3.65m	→
			ヒノキ柱角(KD) 10.5×10.5×3m 特等	→
ヒノキ柱角(KD) 12.0×12.0×3m 特等	→			
ヒノキ土台角(KD) 10.5×10.5×4m 特等	→			
ヒノキ土台角(KD) 12.0×12.0×4m 特等	→			
米材	丸太	産地価格	米マツ ISタイプ	→
		国内卸売価格 (京浜・オトラ)	米マツ ISタイプ コースト	→
	製材品 (カナダ産・ 現地挽き) (国内挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	米ツガ桁角(KD) Std&Btr S4S 10.5×10.5×4m	→
			SPF 2×4 J-Grade R/L	→
			米ヒバ土台角(GR) Std&Btr 4・13/16” 13’	→
米マツ平角(KD) 特等 10.5×24.0×4m	→			
欧州材	製材品	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド ラミナ 2.4×11.0×3m上 ラフ乱尺	→
			〃 間柱類 3.0×10.5×2.985m S4S FOHC	→
北洋材	製材品	北陸・オトラ 京浜・オトラ	アカマツ原板(KD) 40×165 1~3等	→
			アカマツ(KD) 30×40上級	→
			アカマツ(KD) 24×28 積木	→
構造用 集成材	国内産	東京・問屋店頭 渡し価格 〃	ホワイトウッド 集成柱 JAS 5プライ	→
			レッドウッド集成梁 JAS 105×150~360×3.985	→
	欧州産		スギ 無化粧 JAS 5プライ	→
			ホワイトウッド集成柱 JAS 10.5×10.5×2.985	↗
合板	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	タイプ2 F☆☆☆☆ 2.3mm厚 3×6	→
			タイプ2 F☆☆☆☆ 4.0mm厚 3×6	→
			型枠 12.0mm厚 3×6	↗
			針葉樹構造用 12.0mm 3×6 F☆☆☆☆	↗

注) 令和6年4月調査よりレッドウッド集成梁(国内産、欧州産)、アカマツ原板を追加